

## 2012年12月 ベンチャー起業論「ビジネスプランコンテスト」学部長挨拶

今年もこのビジネスプランコンテストを迎えることができました。皆様のおかげで今年もここまで来ることができました。ありがとうございました。

ベンチャー起業論は、今年で13年目になります。この講義には開設当初から2つの目的がありました。それは今も変わっていません。第1の目的は、文字通りの意味で実学として企業経営について学ぶことです。その知識はおそらく学生が社会に出て企業で働く際、あるいは将来独立する際に役立つでしょう。第2の目的は、学生の心に火をつけるということです。阿比留教授のことばを借りれば「学生ひとりひとりに自分の人生の主人公になってもらう」ことです。自分が自分の人生の主人公というのはあまりにも当たり前のことなので、「何だそれは」、「何を言っているの?」と言われそうです。しかし、よく考えてみると、私たちの人生は意外にそうでないものです。親が言う通りの大学にいき、親が言う通りの職につき、上司の言う通りの仕事をし、かみさんの言う通りの買い物し、娘の見たTVにつきあい、飼っている犬がせがむので散歩に出かける、というわけです。

話が少々ずれましたが、そのような他者に合わせる状態から脱却して、自分の人生を主体的に歩んで行って欲しい、これが阿比留教授の願いであり、ベンチャー起業論の第2の目的となっています。こちらこそ真の目的とっていいかもしれません。

しかし、そうは言ってもこの第2の目的を達成するだけの授業というのは大変難しい。まさか、みんなで座禅を組んで心が燃え上がるのを待とうというわけにはいきません。そこで、自己実現に成功したベンチャー起業家、人生の主人公として輝いている方々に来てもらい、自己実現とはこういうことなのだと気づいてもらう。また、プロジェクト活動を通じて、自己実現のために必要な問題解決能力の向上や人間的な成長を図るというしくみになっているわけです。

ベンチャー起業論の受講生諸君は、この一年間の活動の中で心に火がついたでしょうか。成りたい自分のイメージを持ったでしょうか。人間的に成長できたでしょうか。問題解決能力は向上したでしょうか。今日のコンテストの運営やプレゼンで一年間の成果を見せて欲しいと思います。

これからコンテストが始まります。今年は8つの発表があるようです。よく言われる疑問として、本当にこれらはビジネスプランなの?というのがあります。おそらく、本当は名前を変えて、ソリューションプランコンテストと言った方がいいと思います。ソリューション、つまり、問題解決のプランのコンテストです。しかし、実体が原型と違ってしまっても元の名前を使うことはよくある話ですから寛大な心で許容してください。電信なんかなくても電信柱と呼び、筆が入っていないでも筆入れと呼び、ふところに入らないほど大きくても懐中電灯とっているわけですから。

ご来場の皆さんには、ソリューションという視点でプレゼンを見ていただければと思います。

5時間後に今回のプレゼンはどのように評価されるでしょうか。「熱意があってよろしい」といっていただけるかもしれません。あるいは、「まだまだ技術的に未熟だ」というご意見もあるかもしれません。技術的に未熟であるとしたそれは我々学部教員に責任があります。それを学生が熱意で補ってくれるとしたら、私どもは学生諸君に感謝しなければなりません。

最後に今年一年ベンチャー起業論とその関連科目を支えてくださった方々，講師陣の皆様，企業の皆様，授業運営やプロジェクト活動で頑張ってくれた学生諸君，すべての皆様に感謝し，私からの挨拶といたします。